



Beyond 5G 推進コンソーシアム 企画・戦略委員会

白書分科会（第26回）および
各作業班（ビジョン、技術、周波数）合同会合

日時：令和5年12月26日（火）15:00～17:00

場所：ウェブ開催



- ① 白書分科会の活動全体に係るご報告：中村主査 …5分
 - ② ビジョン作業班報告：小西リーダー、事務局 …10分
 - ②-1 WAKUWAKU2030からの報告：事務局 …10分
 - ③ 技術作業班報告及びアカデミアとの連携促進：作本リーダー、下西福リーダー …20分
 - ④ 周波数作業班：本多リーダー …20分
 - ⑤ その他、事務連絡等：事務局 …5分
- (各項目質疑応答を含みます)



WAKUWAKU2030への参加を通じた 白書の改訂について

Beyond5G推進コンソーシアム
白書分科会 ビジョン作業班

2023年12月26日

- WAKUWAKU2030第2回の内容:事務局資料を参照のこと
- 参加者からの情報やコメントは有益だったが、白書2.0版で記載している要件を超える(さらに厳しい)数値は出なかった
 - ✓ エンタメや製造業の担当エディター様が追記・修正の必要性を感じられたら共有とともに、
 - ✓ 白書の修正の準備をお願いしたい
- WAKUWAKU2030第3回は年明けに開催予定
 - ✓ 登壇者が所属される業界の担当エディター様には、パネリストとして参加願いたい
 - ✓ どの業界かについては、登壇者が決まり次第、事務局より連絡があるので、注視願いたい





白書分科会 技術作業班 報告資料およびアカデミアとの連携促進

技術作業班 リーダ・サブリーダー

2023年12月26日

- 別冊技術トピック・執筆リスト確定 [スライド3～6参照]
 - 執筆リストについては一旦確定として進めるが、執筆間に合うようであれば、各取り纏めの方の判断にて追加等、お願い致します。
- 作業スケジュール [スライド7参照]
 - 別冊作成定例会を取り纏めの方を中心に月末に開催。
 - 実行可能な線表であるか、ご確認お願い致します。
- 別冊作成イメージ [スライド8参照]
 - 執筆要項、テンプレートについては共通サーバーへ格納済み。

(順不同・敬称略)

別冊候補	取り纏め	寄稿・執筆者	寄稿・執筆内容
Cell-Free・Distributed MIMO	KDDI 菅野	KDDI 菅野	Cell-Free masive MIMOに関する取り組みの紹介（クラスタリング、フロントホール対策、容量・エネルギー効率改善技術、技術実証）
		富士通 山口	分散アンテナ（高密度分散MIMO、リソースシェアリング） [以下、補足情報] ・高密度分散MIMO：多数の分散配置されたアンテナを利用したMU-MIMO技術。超高密度分散アンテナ国プロをベースに紹介。 ・リソースシェアリング：基地局シェアリング国プロをベースに、BB計算機リソース、FHのシェアリングを加味した無線リソースの制御技術を紹介。
		NTTドコモ 須山	分散MIMO技術
		NTT研究所 内田	分散MIMO技術（A-RoFを含めて）
		NEC 村岡	ミリ波帯の分散MIMO向け技術(RoF、スケジューリング、受信処理、移動予測制御、等
		東北大 安達先生	分散MIMO・Cell-Freeに関するお取り組みのご紹介
		東京理科大 樋口先生	分散MIMO・Cell-Freeに関するお取り組みのご紹介
		電気通信大 石橋先生	分散MIMO・Cell-Freeに関するお取り組みのご紹介

(順不同・敬称略)

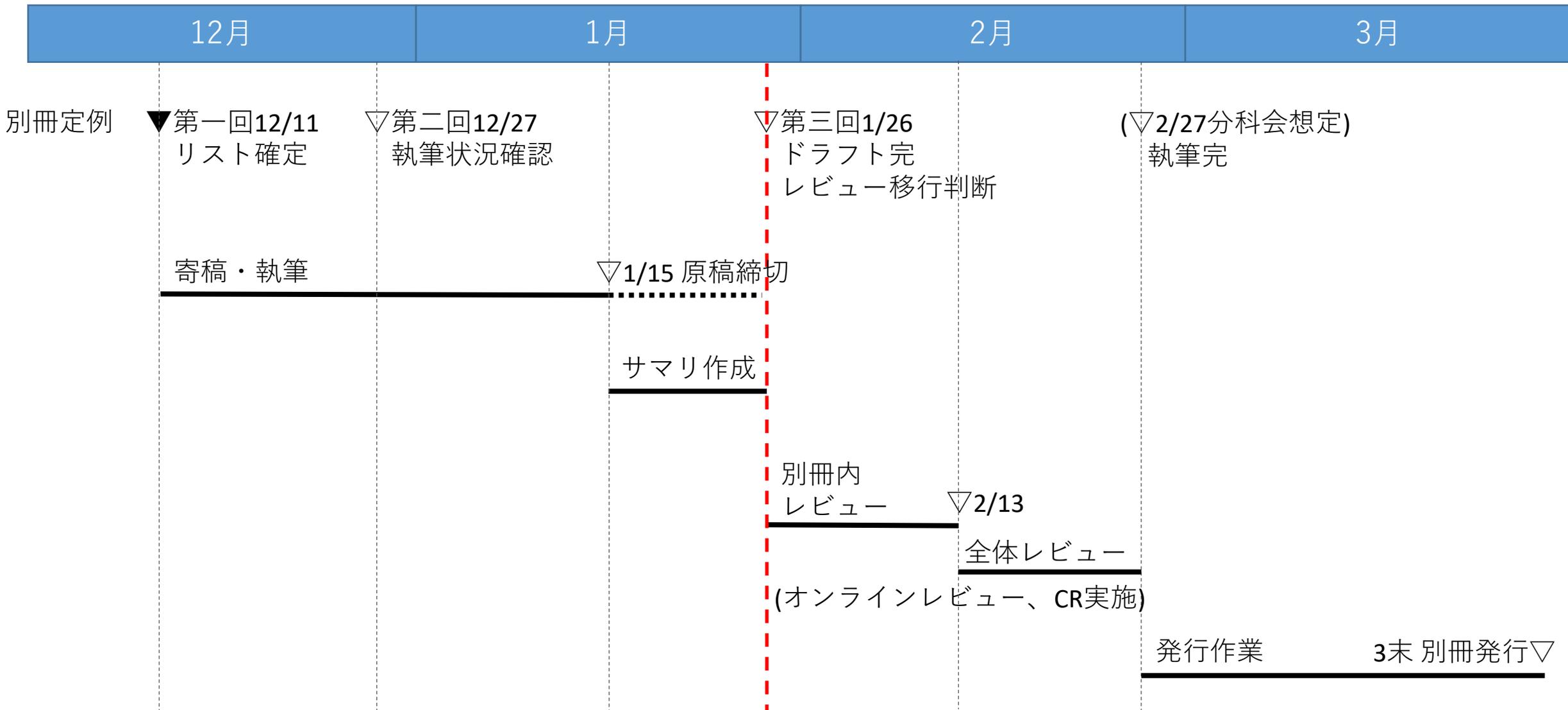
別冊候補	取り纏め	寄稿・執筆者	寄稿・執筆内容
高周波数帯無線技術	富士通 作本	KDDI 伊藤智	高周波数帯（サブテラヘルツ帯）による端末拡張技術（仮想化端末技術）
		NTTドコモ 須山	高周波数帯（サブテラヘルツ帯）デバイス技術
		NTTドコモ 須山	高周波数帯（サブテラヘルツ帯）無線アクセス技術
		NTTドコモ 久野伸晃	高周波数帯（サブテラヘルツ帯）電波伝搬技術 (主に屋内における時間的特性または空間的特性の解析結果)
		NTTドコモ 須山	
		NTT研究所 山田	高周波数帯（サブテラヘルツ帯）電波伝搬技術
		NTT研究所 内田	
		NTT研究所 内田	sub-THz帯用変復調技術（AI活用のRF不完全補償技術など）
		NTT研究所 内田	OAM技術
		早稲田大学 前原先生	OAMの長距離化技術
		早稲田大学 齋藤先生	
		NTT 李	
		HUAWEI 輿水	Terahertz Sensing and Communication Towards Future Intelligence Connected Networks
		富士通 山口	テラヘルツ波を用いたビーム制御 (国プロ成果)
		NEC 丸田	(NTTドコモ/富士通と共同SubTHz国プロ成果)
		NEC 丹治	
千葉工大 枚田先生	人体近傍における 300 GHz 帯電波伝搬特性評価技術		
名工大 榊原先生	高周波数帯（サブテラヘルツ帯）ビーム走査アンテナ技術		
名工大 杉本先生			
NTTドコモ 須山	閉域NW環境のための（産業利用向け）無線通信技術		
早稲田大学 川西先生	テラヘルツ帯固定無線システム (別件「テラヘルツ帯散乱」についてご寄稿可能性あり。)		

(順不同・敬称略)

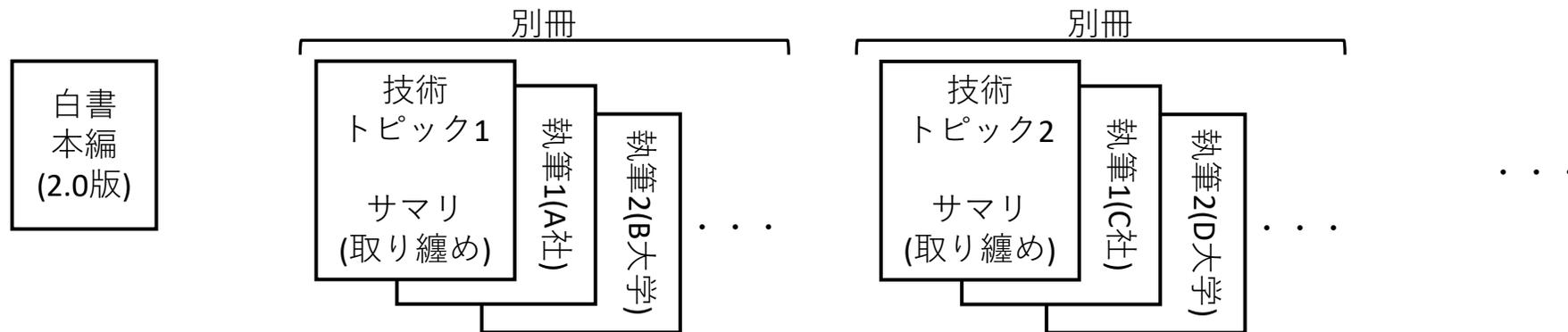
別冊候補	取り纏め	寄稿・執筆者	寄稿・執筆内容
無線中継・反射板技術	NTTドコモ 須山	NTTドコモ 須山	反射板技術
		NTTドコモ 須山	高速伝搬シミュレーション技術
		NTT研究所 内田	New Radio NW Topology技術（無線中継技術や反射板技術）
		KDDI総合研究所 大戸	メタサーフェス反射板技術
		山口大学 村田先生	端末連携技術（ドコモと共著）
		北海道大学 西村先生	反射板技術（ドコモと共著）
		東北大学 川本先生	反射板技術（NTTと共著）
		PSNRD 宇野	反射板技術（川本先生と共著）
		PSNRD 浅野	無線中継技術
		富士通 尾崎	基地局端末間の協調による動的ネットワーク制御に関する研究開発
E2Eアーキテクチャ	NICT 石津 NICT 東	KDDI 新保宏之	
		NTT 松本様	Optimum collaboration of network functions and computing resource
		HUAWEI 輿水	
		NEC 里田	自律運用（アーキテクチャのコンテキスト）
		阪大 下西	
		ノキア 高橋	
AI/ML	NEC 高橋	HUAWEI 輿水	
		NEC 高橋	自律運用（AI活用のコンテキスト）
		NEC 高橋	RAN自動最適化（アプリケーションQoSアウェア）
		ノキア 高橋	
センシング	NTTドコモ 須山	HUAWEI 輿水	Integrated Sensing and Communication (ISAC) — From Concept to Practice
		NTT研究所 内田	無線センシング
		NICT 井戸	時空間同期関連

(順不同・敬称略)

別冊候補	取り纏め	寄稿・執筆者	寄稿・執筆内容
Energy efficiency・Sustainability	ノキア 高橋	ノキア 高橋	Sustainabilityの定義や6G向けのsustainabilityに関する考え、及びEnergy Efficiencyに関する技術をシステム全般からCN/RAN観点まで概説する。
		楽天モバイル 青柳	3GPP Rel-19やO-RAN Allianceで検討されているEnergy Saving/Sustainability向けのユースケースや要求条件。国プロ関係でO-RAN Allianceに関する研究内容RIC関連のenergy efficiencyに関する内容
		NICT 宮澤	人流データに基づく基地局の省エネルギー化に関するもの
		富士通 井沢	消費電力削減を例としたvRANリソースの最適配備計画技術 (B5G国プロ案件)
NTN技術	(富士通 作本)	NTTドコモ 須山	HAPS技術
		NTT研究所 内田	NTN技術 (GEO・LEO・HAPS連携技術など)
		ソフトバンク 西村	HAPS技術
		HUAWEI 輿水	Very Low Earth Orbit Satellite Networks 6G



- 技術トピック毎に別冊化。
- トピック取り纏めに、各別冊のサマリを作成いただく。(1~2枚程度)
- 寄稿・執筆いただく内容は、各社様・アカデミア様が現在推進されているB5G/6G関連技術の研究開発について、学会等で発表されているものをベースに白書向けにアレンジいただくことを想定。極力グラフ等を用いて具体的・定量的な評価結果を載せていただく。
- 分量は一執筆者あたりA4シングルカラム10.5ptで4-5ページを想定。
- 白書本編のページフォーマットを拡張する形でフォーマットを展開済み。フォーマットに記載のない部分については、IEEE format等を適宜参照。
- 言語は英語とする。
- 著作権は著者に属する(白書分科会への譲渡は行わない)。



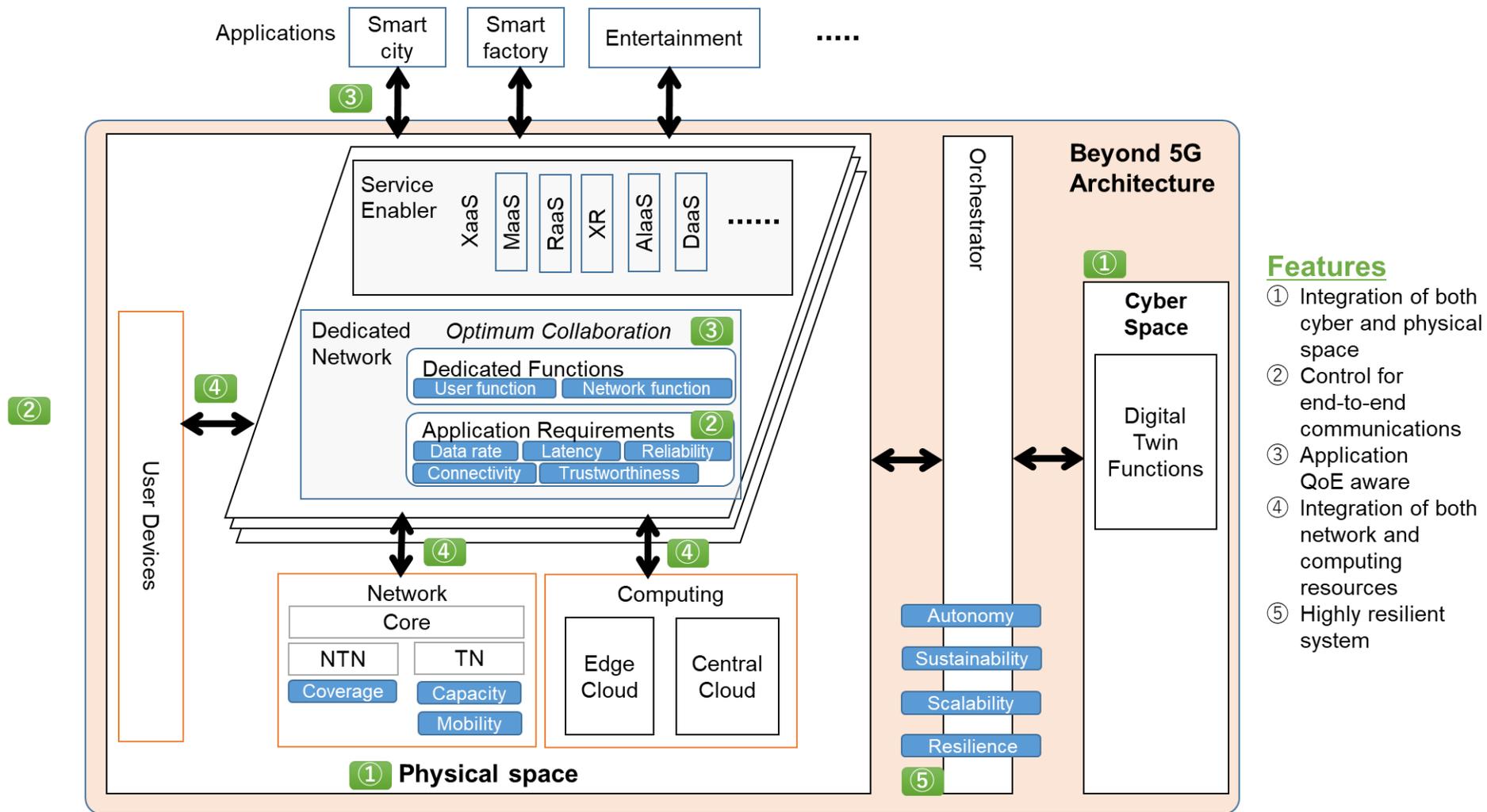
• 記載方針

- 現状アーキテクチャの記載については6章において技術の一つとしての記載となっているが、アーキテクチャすべての技術の根本として独立させ、6章の最初に持ってくる。
 - ①作成して頂いた“6.6 ネットワークアーキテクチャ”の章から、対外的に発信していくべきアーキテクチャを6章直下の最初に持ってきて強めのメッセージとして発信する
 - ②技術としてのオーケストレーションや自動化については引き続き6.6章に残す
 - ③個別技術については別冊にて紹介する

• ステータス及び今後の進め方の議論

- 別冊に記載内容の技術と連携する形で、本編のアーキテクチャ章も修正予定。
- NICT/NECを中心に作業中。
- E2Eアーキテクチャ別冊のメンバーにて、“Beyond 5G Architecture”の図を作成中(次ページ参考)

• 検討中のアーキテクチャイメージ(現在議論中)



- 目的
 - 本別冊群では、企業からの取り組みだけでなく、アカデミアとの取り組みも含めて、日本全体としての取り組みを発信していきたい
 - そして、今後も産学連携を推進し、両者のよりよい関係を築いていく一助になりたい
- 手段
 - 以下のように技術トピックのカテゴリを設ける
 - 技術トピックカテゴリ①：企業単独の研究成果
 - 技術トピックカテゴリ②：企業と大学の共同研究の成功事例（主として大学が執筆）
 - 技術トピックカテゴリ③：今後企業との共同研究が期待される研究成果（大学が執筆）
- 効果
 - 海外に対しては日本として産学連携に力を入れており、成功していることを示す
 - 国内大学に対しては、産学連携に対するモチベーションを高め、企業に役立つ研究への注目度を高める
- お願い
 - **現在共同研究を行っている大学に対して、カテゴリ②の技術紹介を依頼して頂きたい**
 - お知り合いの大学関係者に対して、カテゴリ③の募集を行っていることも告知頂きたい
 - 上記について、執筆予定の各企業様に対して、ご依頼頂きたい
 - 大学に依頼・募集していただく際の文章は共通サーバー格納済み。ご活用願います。

- **大阪大学先導的学際研究機構DX社会研究部門～6G社会の実現に向けた革新的技術開発～（6Gシンポジウム）**
 - 大阪大学では6G技術の発展に向けて、L5G、サブテラヘルツ通信、サステナブルICT、ヒューマンデジタルツイン等の様々な分野の研究を推進しております。また吹田キャンパス、豊中キャンパスに基地局を整備し、実証実験を含む研究・技術開発を行っています。本シンポジウムでは本学の最新の6G関連研究技術のご紹介に加え、Beyond 5G推進コンソーシアムのご協賛をいただき、Beyond5G推進コンソーシアム白書分科会でのお取組等についてご講演いただく予定です。またパネルディスカッションパートでは、B5G/6G分野において日本が世界を牽引する技術力・発信力を持つための産学連携の在り方をテーマとする予定です。
- **日 時：** 2024年1月24日（水） 13：00 - 17：00
- **開催形式：** ハイブリッド（会場開催＋オンラインZoomウェビナー）
- **会 場：** 大阪大学吹田キャンパス内 银杏会館3階 阪急電鉄・三和銀行ホール
- **アクセス：** <https://www.med.osaka-u.ac.jp/icho/accessmap>
- **プログラム：** タイムテーブル、登壇者情報、ポスターセッション情報等はシンポジウムホームページでご覧いただけます。
- **大阪大学6Gシンポジウム ホームページ** <https://ou-6gsymposium.org/index.html>
- **参加申込：** https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSctkrwLXm_dympEojdmQHwG-p_6ZODOVkWFWCx9_zCMC8rn4Q/viewform（要参加申込）

企画・運営:大阪大学先導的学際研究機構 DX社会研究部門

大阪大学先導的学際研究機構 DX社会研究部門シンポジウム

～6G社会の実現に向けた革新的技術開発～

2030年代の社会課題解決に向けて、現在、Beyond 5G/6Gに関する様々な取り組みが行われています。Beyond 5G 推進コンソーシアムでは、2030年代に期待される強靱で活力のある社会の実現に向け、Beyond 5Gにおける国際競争力の強化を目指して様々な活動を行っています。また、大阪大学先導的学際研究機構では、組織・社会・国境等の垣根を越えた協働による先導的学際研究を推進しています。本シンポジウムでは、Beyond 5G 推進コンソーシアム白書分科会より、現在公開され、また精力的アップデートおこなわれているBeyond 5G ホワイトペーパーに關し、特にその目指すビジョンや技術動向・KP (Key Performance Indicator) などについてご紹介いたします。また、先導的学際研究機構 DX社会研究部門からは、Beyond 5G/6Gに向けた情報科学の新たな学術領域において、サブテラヘルツ無線通信やヒューマンデジタルツインなど大阪大学が進めている最先端研究について幅広くご紹介いたします。その上で、パネル討論において、双方の代表者より将来目指す姿とそれを実現する革新的技術の連携について、またそのための産学連携のあり方について討論します。また、ポスターセッションにおいては関連する個別技術の紹介も行う予定です。多くの方のご参加をお待ちしております。

参加無料

2024年 **1月24日** 水 **ハイブリッド形式**
午後 13時～17時
会場開催 + **オンライン Zoom ウェビナー**

大阪大学吹田キャンパス 銀杏会館 3F 阪急電鉄・三和銀行ホール

参加申込 以下の参加登録フォームよりご登録ください。
<https://forms.gle/iDStkw5xCsfmb3Yz8>
※参加を希望される方は、必ず上記フォームより事前の参加登録をお願いいたします。

基調講演 1
中村 武宏
 株式会社 NTT ドコモ
 R&D イノベーション本部
 Chief Standardization Officer
**Beyond 5G 推進
 コンソーシアム白書概要**

基調講演 2
小西 聡
 株式会社 KDDI 総合研究所
 取締役執行役員副所長
 先端技術研究所長
**Beyond 5G/6G 時代の
 ユースケースと
 求められる要件について**

主催：国立大学法人大阪大学 / 協賛：Beyond 5G 推進コンソーシアム

プログラム	
13:00～13:05	開会の挨拶 原 隆浩 大阪大学 先導的学際研究機構 DX社会研究部門 部門長 大学院情報科学研究科 研究科長・教授
13:05～13:35	基調講演 1 Beyond 5G 推進コンソーシアム白書概要 中村 武宏 株式会社 NTT ドコモ R&D イノベーション本部 CSO (チーフスタンダーダイゼーションオフィサー)
13:35～13:55	研究紹介① ローカル 5G セルラーシステムを用いた情報通信サービスの高度化に関する研究 荒川 伸一 大阪大学 大学院情報科学研究科 准教授
13:55～14:15	研究紹介② サブテラヘルツ通信 テラヘルツ無線通信技術の研究動向と今後の課題 永妻 忠夫 大阪大学 大学院基礎工学研究科 教授
14:15～14:35	研究紹介③ サステナブル ICT サステナブルな ICT 社会を実現するデジタルツイン技術 下西 英之 大阪大学 サイバーメディアセンター 教授
14:35～14:55	研究紹介④ ヒューマンデジタルツイン 脳の情報処理機構に学ぶデジタルツイン・プラットフォーム 村田 正幸 大阪大学 大学院情報科学研究科 教授
14:55～15:20	休憩・ポスターセッション
15:20～15:40	研究紹介⑤ 自己主権型コントラクト 自己主権型データ流通を支えるスマートコントラクトと DAO 落合 涉悟 大阪大学 大学院情報科学研究科 特任研究員
15:40～16:10	基調講演 2 Beyond 5G/6G 時代のユースケースと求められる要件について 小西 聡 株式会社 KDDI 総合研究所 取締役執行役員副所長 先端技術研究所長
16:10～17:00	パネル ディスカッション B5G/6G 時代に日本が革新的な技術力で世界をリードしていくための産学連携のあり方について
17:00	閉会の挨拶 村田 正幸 大阪大学 大学院情報科学研究科 教授

■ポスター発表 大阪大学銀杏会館 3F (会場開催のみ)



大阪大学銀杏会館 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2
 大阪モノレール彩都線「阪大病院前」駅から徒歩約 5分
 JR 京都線 (東海道本線)「茨木」駅・阪急京都本線「茨木市」駅から
 近鉄バス「阪大病院・阪大本部前」行きに乗り。
 「阪大医学部病院前」下車、徒歩約 5分
 北大阪急行電鉄 (大阪メトロ御堂筋線)「千里中央」駅・大阪モノレール本線「千里中央」駅から
 阪急バス「阪大本部前」または「茨木美穂ヶ丘」行きに乗り。
 「阪大病院前」下車、徒歩約 5分

お問合せ先 国立大学法人大阪大学 大学院情報科学研究科内
 大阪大学先導的学際機構 DX 社会研究部門 6G シンポジウム事務局
 e-mail office@ou-6gsymposium.org



白書分科会 周波数作業班資料（第10回）

周波数作業班リーダー

2023年12月26日

- 6.1.3.1章「周波数資源の利活用動向」の内容更新
 - APG23-6会合の結果
 - WRC-23の結果

- 7 – 15GHz帯の国内利用状況の調査
 - 公開情報を利用して、利用状況を確認する。
 - IMTとして利用、既存業務との共用の可能性を考察。

- 周波数共用技術について考察を追記。

- 6GHz帯を検討した議題1.2では、以下の帯域をIMTに特定した。
 - 6425 - 7025MHz（第1地域）
 - 7025 - 7125MHz（第1地域、第3地域）
 - 6425 - 7125MHz（第2地域の2カ国）
 - 6425 - 7025MHz（第3地域の3カ国）

参照資料：WRC-23 Document 514-E



Microsoft Word
Document

(注：添付文書はプレナリ会合に提出されたものであり、最終的な結果は[Provisional Final Acts](#)を参照)

- HIBS (high-altitude platform stations as International Mobile Telecommunications base stations)を検討した議題1.4では、以下の帯域をHIBSに特定した。
 - 694/698 - 960MHz（またはその一部）（第1地域、第2地域）
 - 694 - 960MHz（またはその一部）（第3地域の14カ国）
 - 1710 - 1980MHz、2010 - 2025MHz、および 2110 - 2170MHz（第1地域、第3地域）
 - 1710 - 1980MHz、および2110 - 2160MHz（第2地域）
 - 2500 - 2690MHz（第1地域、第2地域）
 - 2500 - 2655MHz（第3地域）

参照資料：WRC-23 Document 463-E



Microsoft Word
Document

(注：添付文書はプレナリ会合に提出されたものであり、最終的な結果は[Provisional Final Acts](#)を参照)

- 以下の帯域について、地上系IMT特定を検討する。（議題1.7）
 - 4400 – 4800 MHz (第1地域、第3地域)
 - 7125 – 8400 MHz (第2地域、第3地域)
 - 7125 - 7250 MHz、および 7750-8400 MHz (第1地域)
 - 14.8 – 15.35 GHz

参照資料：WRC-23 Document 506-E



Microsoft Word
Document

(注：添付文書はプレナリ会合に提出されたものであり、最終的な結果は[Provisional Final Acts](#)を参照)

- 衛星・IMT端末間の直接通信による地上系IMTカバレッジ補完のために、周波数範囲 694/698 MHz - 2.7 GHzにおける移動衛星業務割当を検討する。（議題1.13）

参照資料：WRC-23 Revision 1 to Document 427(Add.13)-E



(注：添付文書はプレナリ会合に提出されたものであり、最終的な結果は[Provisional Final Acts](#)を参照)

- 以下の帯域の地上系IMT特定を検討するWRC-31の暫定新議題を合意した（ただしこれらの帯域についてもWRC-27にて検討予定）。
 - 102 - 109.5 GHz
 - 151.5 - 164 GHz
 - 167 - 174.8 GHz
 - 209 - 226 GHz
 - 252 - 275 GHz

参照資料：WRC-23 Document 428(Add.8)-E



Microsoft Word
Document

(注：添付文書はプレナリ会合に提出されたものであり、最終的な結果は[Provisional Final Acts](#)を参照)

- 利用状況の結果をもとに、特定の帯域を評価して、白書の内容とする。
- 評価方法の提案
 - WRC-27議題の対象となった、7125 – 8400 MHz、14.8 – 15.35 GHz (、および4400 – 4800 MHz)を評価する。
 - これら帯域について、利用状況、移動業務への割当有無、連続した広帯域の可能性、他国の支持状況等の情報を追記して、評価とする。

➤ 各社様の担当および作業状況

	帯域	担当社	作業状況
1)	7125 MHz – 8500 MHz	DOCOMO, Qualcomm	第9回会合（10月24日 後に1次検討を終了し た。結果は共用フォル ダーに掲載している。
2)	8500 MHz – 10 GHz	Ericsson	
3)	10 GHz – 11.7 GHz	Nokia, ARIB	
4)-1	11.7 GHz – 12.75 GHz	スカパーJSAT	
4)-2	12.75 GHz – 14 GHz	Huawei	
5)	14 GHz – 15.4 GHz	KDDI	

	2023年	2024年					
	12月	1月		2月		3月	
白書分科会周波数作業班	12/26 ▲		1/23 ▲		2/27 ▲		
白書アップデート一次ドラフト準備	← 1/19 →				2/20		
作業班メンバーでドラフトのレビュー			← 2/20 →				
白書分科会メンバーのレビュー					← 3/8 →		
第3版完成（周波数関連）						3/8 ▲	

- 1 はじめに
- 2 周波数資源の利活用動向
(現在の白書6.1.3.1章を更新する、APG23-6、WRC-23の結果を反映)
- 3 7 – 15GHz帯の国内利用状況と評価
- 4 周波数共用技術
- 5 まとめ

- 公開情報を利用して、利用状況を確認する。
 - 使用する公開情報は次ページ目を参照。
 - 公開情報を確認して、利用状況を示すExcelシートをアップデートする。

- 利用状況を確認した後、IMTとして利用、既存業務との共用の可能性を考察する。

周波数利用状況公開情報（一例）

1) 「周波数割当計画」（pdf形式、令和5年6月1日現在）

<http://www.tele.soumu.go.jp/j/adm/freq/search/share/plan.htm>

2) 使用状況の詳細（令和5年3月1日現在）

<http://www.tele.soumu.go.jp/j/adm/freq/search/myuse/use/index.htm>

<http://www.tele.soumu.go.jp/resource/search/myuse/use/ika.pdf>

3) 「周波数再編アクションプラン（令和4年版）」の公表（令和4年11月21日）

[総務省 | 報道資料 | 周波数再編アクションプラン（令和4年度版）の公表 \(soumu.go.jp\)](#)

4) 令和3年度電波の利用状況調査の評価結果及び意見募集の結果の公表（令和4年7月15日）

[総務省 | 報道資料 | 令和3年度電波の利用状況調査の評価結果及び意見募集の結果の公表 \(soumu.go.jp\)](#)

別紙2（令和3年度電波の利用状況調査の評価結果、714MHz 超の周波数帯）

https://www.soumu.go.jp/main_content/000825527.pdf

別紙3（令和3年度電波の利用状況調査の評価結果の概要）

https://www.soumu.go.jp/main_content/000825528.pdf

5) これまでの電波利用状況の調査結果および評価結果

[総務省 電波利用ホームページ | 免許関係 | 電波の利用状況調査の調査結果及び評価結果 \(soumu.go.jp\)](#)





⑤ 今後の予定 白書分科会の会合予定

会合	開催日時（基本）	
白書分科会（ビジョン作業班と技術作業班の合同開催）	毎月1回 第4火曜日 15時～18時	白書分科会と合同開催
ビジョン作業班	毎月1回 第4火曜日 15時～18時の一部	
技術作業班	毎月1回 第4火曜日 15時～18時の一部	
周波数作業班	毎月1回 第4火曜日 15時～18時の一部	

日付	時間	白書分科会	ビジョン作業班	技術作業班	周波数作業班	備考
12/19（火）	15:00-17:00	白書分科会幹部会				—
12/26（火）	15:00-17:00	第26回	第37回	第28回	第10回	本日
1/16（火）	15:00-17:00	白書分科会幹部会				予定
1/23（火）	15:00-17:00	第27回	第38回	第29回	第11回	予定
2/20（火）	15:00-17:00	白書分科会幹部会				予定
2/27（火）	15:00-17:00	第28回	第39回	第30回	第12回	MWCと重複のため要調整（暫定）
3月実施未定	—	—	—	—	—	—

閉会

ご参加ありがとうございました。